

浜の活力再生プラン (第 2 期)

令和 3 年 12 月変更

1 地域水産業再生委員会

組織名	千葉県地域水産業再生委員会内湾地区部会
代表者名	内湾地区部会長 佐久間 國治 (富津漁業協同組合組合長理事)

再生委員会の構成員	市川市、船橋市、牛込、金田、久津間、江川、木更津市中里、木更津、富津、新富津、富津市下洲、大佐和、天羽の各漁業協同組合、市川市、船橋市、木更津市、富津市の各水産主務課、千葉県(水産課、漁業資源課)、千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	富津市新富津地区ノリ養殖業 60 経営体 (新富津漁協地区内)
-------------------	---------------------------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>【千葉県ノリ養殖業の現状】</p> <p>県内ノリ養殖業の経営体は、10 年前 (平成 20 年) には 366 経営体、5 年前 (平成 27 年：第 1 期当初) 217 経営体、平成 30 年度は 168 経営体と著しく減少している。減少の要因は生産者本人や家族労働者の高齢化、高額な陸上加工施設の老朽化、東日本大震災や台風など度重なる災害、さらには平成 27 年度漁期から顕著化した極端な年内生産期の生育不良などである。生産量は技術や機器の高度化と養殖規模の拡大に伴い平成 14 年度漁期には過去最高の 5.1 億枚を記録したが、近年は 2.5 億枚程度にまで減少している。原因は経営体数の減少のほか、高水温化や貧栄養化など養殖に不適な環境変化の影響も大きい。特に、平成 27 年度漁期から継続している極端な不作は、魚類やカモによる食圧の増大も疑われている。</p> <p>廃業した経営体の柵の存続経営体への割当てを進めた結果、経営体あたりの養殖規模は 30 年前の約 2 倍の 200 柵程度まで増加したが、近年は労力及び施設能力的に限界に達し、頭打ちになっている。</p> <p>生産金額は平成の前半には 50 億円程度で推移していたが、近年は経営体数が減少し生産枚数が減少したため 20 億円台となった。</p> <p>また平成 27 年度漁期以降の不作による品不足から単価は上昇したが、生産の落ち込みが大きく、29、30 年漁期は 20 億円を下回った。</p> <p>本県のノリは贈答用など高価格帯の比率が比較的高く、全国の中でも高値で取引されてきたが</p>

ゆえに、長引く景気の低迷、中低価格帯のコンビニ等の業務用への需要のシフト、食文化の変化、さらには低価格の中国・韓国の外国産ノリの輸入量増加などの影響を強く受け、長期的に下落傾向が続いていた。平成 28 年度漁期からは、全国的な不作により高値となり、平成 30 年度漁期には海苔 1 枚あたり 13.9 円台となったが、今後の動向は不透明である。

ノリ養殖業は本県の魚種別生産金額の第 2 位に位置する東京湾内湾漁業の基幹産業であるが、漁家経営は大変厳しい状況にあることから、新たな養殖技術の導入による生産対策や陸上加工施設の共同利用の推進による生産性の回復、単価向上、コスト削減などに取り組む必要がある。

【新富津地区ノリ養殖の現状】

県内産ノリの約 6 割近くを生産している新富津地区においても、高齢化等を理由とした経営体の減少や生産コストの高止まり、年内生産期の生育不良による生産の減少に悩まされている。このため、当地区では浜の活力再生プランを平成 27 年度に策定し、ノリ共同加工施設や高速浸漬処理船の導入等の取り組みを行い生産体制の強化を図っている。

今後も、千葉県漁連や富津市等と協力した積極的な販売促進に加え、ノリ養殖業者自らの PR 活動、漁協ブランドのノリ販売等に取り組むとともに、27 年漁期以降続いている過去に例のない不漁などに対して、生産性の回復や単価の向上に対する取り組みが急務となっている。

(2) その他の関連する現状等

富津市はノリ養殖業のほか、アサリ・バカガイといった貝類漁業、潜水器・小型底びき網・まき網といった漁船漁業など、千葉県内でも有数の多様な漁業種類を持つ地区であり、その対象魚種も多い。観光資源として、潮干狩りのほか、筒漁業で漁獲されるアナゴは、地元で「はかりめ」と呼ばれており、「富津はかりめフェア」等を通じて観光客に提供されている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

【漁業収入向上のための取組】

①漁業者の生産コストの削減・操業の効率化

乾海苔への加工は、各戸で乾燥機を整備して行うことが主流であったが、機器類の整備費用や施設更新費用が経営を圧迫し、かつ、家族労働者の高齢化など陸上労働者の確保が難しくなっていることから、全国的に共同加工施設への移行が進んでおり、当地区でも 30 年度にノリ共同加

工施設の 1 号棟を整備したところである。

また、高速浸漬処理船を 28、30、31 年度に各 1 隻導入し、操業の効率化を図っている。

ノリ加工施設については、共同加工施設を利用することで、個人負担だった加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）の合理化が図られ、一枚当たりの乾ノリ製造のコスト削減が可能となる。また、漁業者本人と家族で行っていた加工の作業時間が共同加工施設の利用で無くなるため、その分の労力をノリ生産に振り分けることで生産枚数の増加が期待される。当地区の 60 経営体（令和元年時点）のうち、現在 53 経営体は自己所有施設を利用していることから、当地区にノリの共同加工施設を 3 棟増棟し、利用者数を増やすことで地区全体の漁業収入の向上及び経営体の減少に歯止めをかけることが可能となる。

高速浸漬処理船についても、さらに導入を進め生産の効率化が図れるよう検討する。

②生産対策

近年の気象・海況の変化に対応するため、第 1 期浜プランで取り組みを進めた「漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討」、「高温耐性品種ちばの輝きの導入」及び「台風に対する避難手法の導入」の普及を推進する。

また、当地区では平成 27 年度漁期から年内生産期を中心とする極端な生育不良が 4 年続けて発生している。原因は特定されておらず、魚類やカモ類による食圧の増大や、沖合の栄養塩類の少ない暖水の波及など様々な要因が疑われている。

現在、ノリ網を防除ネットで囲うことで一定の生育効果が認められていることから、防除ネットの導入を進めるとともに、ネットの設置作業はかなりの手間がかかることからネットの設置及び撤去にかかる作業負担が少ないモデルを確立し、普及することで生産増を図る。

年内生産期における生育不良は未だ原因は明確ではないことから、水産総合研究センターと連携して、原因究明と効率的な対策手法の開発に取り組むこととする。

【PR 活動の推進】

③ 学校給食への提供による食育活動

ノリを食べる食文化の継承と新たな千葉海苔のファンの獲得、市内地場産業であるノリ養殖の理解促進を図るため、市内の小中学校を中心にノリを提供するほか、ノリの生産についての DVD 教材やノリ共同加工施設に設置した見学施設を活用した食育活動を行う。

④ 富津生ノリフェアとの連携

消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報、生産地でしか味わえない旬の生ノリの提供などを富津市商工会や市内飲食店と連携して行い、ノリの PR 活動を行う。

⑤ ふるさと納税の返礼商品への参加

富津市のふるさと納税の返礼品に応募することにより、ふるさと納税を行う消費者への PR を行い、漁協ブランドの海苔の販売量増加を目指す。

⑥新たな加工品の開発と販売

ノリの付加価値向上を図るため、新たな加工製品としてばら干しノリの生産について検討し導入を図る。

⑦遊漁船及び食堂の経営

新たに遊漁船業及び直営食堂の経営に取組み、地域への来訪者に対してノリをはじめとする地場の水産物を提供し、地域の活性化とノリ PR につなげる。

⑧千葉県海苔販売促進基本方針に基づく取組への参加

千葉県漁連・千葉県海苔問屋協同組合・千葉県が平成 29 年 1 月に策定した千葉県海苔販売促進基本方針に基づく取組（意見交換会、PR 活動など）に積極的に参加する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

【新富津漁業協同組合のり養殖漁場改善計画】

持続的養殖生産確保法第 4 条に基づき、計画を策定している。

主な内容は、漁場の適切な利用（密植防止など）、養殖資材の適切な撤去・処分、浸漬処理剤の使用基準の遵守などを定めている。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和 2 年度）以下の取組を行うが、1 年目は効果が発現せず所得向上はない見込み。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none">・ 2 棟目のノリ共同加工施設の整備 ノリ共同加工施設の本体工事を行う（運用開始は令和 3 年漁期から）。・ 生産対策 ノリの短縮化を防ぐ防除ネットの設置は、一定の効果が認められているが、その設置や撤去作業の負担が大きい。 そこで、三重県鳥羽市で使用されている防除ネットを本県の生産体制に合わせた改良及び効果の検証を行う。 高水温化に対応するため、高水温耐性品種ちばの輝きの普及を推進するとともに、養殖開始日を決定するにあたりノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の 7～10 日先の予報を活用する。 また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。 近年の生育不良の原因究明と対策手法の開発に水産研究センターと連携して取り組む。・ PR 活動 学校給食へのノリの提供、生ノリフェアとの連携を行うほか、海苔販売促進基本方針に基づく取組に積極的に参加し、PR 活動を行う。
--------------	--

	<p>ノリの付加価値向上を図るため、新たな加工製品としてばら干し海苔の生産及び施設の導入について検討する。漁協ブランドの海苔販売量の増加を目指し、販路の拡大に取り組む。</p> <p>ふるさと納税の返礼品として、ふるさと納税を行う消費者へのPRを行い、漁協ブランドの海苔の販売量増加を目指す。</p> <p>海水浴客など富津市への来訪者を対象とした試食会開催などを行い、ノリをPRする。</p> <p>遊漁船業の開業及び食堂の開設に向けた検討、設計を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>2棟目のノリの共同加工施設を設置し、次年度からの加工作業の協業化にむけ、2棟目を利用して加工作業の協業化に取り組む経営体（4経営体）を中心に、協業化した際の生産・管理体制について調整する。</p>
活用する支援措置等	水産業競争力強化緊急施設整備事業

2年目（令和3年度）以下の取組により基準年比7%増の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2棟目のノリ共同加工施設の運用開始により7%の所得向上を図る ・3棟目のノリ共同加工施設の実施設計を行う ・生産対策 <p>令和2年度の三重県方式の防除ネットの改良、効果検証を行い、改良型の防除ネットの普及を図ることで、生産増を目指す。</p> <p>高水温化に対応するため、高水温耐性品種ちばの輝きの普及を推進するとともに、養殖開始日を決定するにあたりノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7~10日先の予報を活用する。</p> <p>また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p> <p>近年のノリの生育不良の原因究明と対策手法の開発に水産研究センターと連携して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR活動 <p>学校給食へのノリの提供、生ノリフェアとの連携を行うほか、海苔販売促進基本方針に基づく取組に積極的に参加し、PR活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの付加価値向上を図るため、新たな加工製品としてばら干し海苔加工施設を導入し、販売を行う。 ・漁協ブランドの海苔販売量の増加を目指し、海水浴客など富津市への来訪者を対象とした試食会開催や販路の拡大に取り組む。 ・また、食堂を開設し、消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や旬の生ノリ提供を行うとともに、組合直営の遊漁船業を開業し、
--------------	---

	釣客に漁協ブランド海苔の販売を行う。
漁業コスト削減のための取組	3棟目のノリ共同加工施設の設置に向けた詳細設計を行う。
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）

3年目（令和4年度）以下の取組により基準年比7%増の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3棟目のノリ共同加工施設を整備 2棟目のノリ共同加工施設の運営に係る課題、利用者の所得状況を整理し、効率的な運営を図る。 ・ 生産対策 令和2年度の取組となっている三重県方式の防除ネットの改良、効果を検証し、改良型の防除ネットの普及を図ることで、ノリの生産増を目指す。 高水温化に対応するため、高水温耐性品種ちばの輝きの普及を推進するとともに、ノリの養殖開始日を決定するにあたりノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7～10日先の予報を活用する。 また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。 近年発生しているノリの生育不良の原因究明と対策の開発に水産研究センターと連携して取り組む。 ・ PR活動 学校給食へのノリの提供、生ノリフェアとの連携を行うほか、海苔販売促進基本方針に基づく取組に積極的に参加し、PR活動を行う。 漁協ブランドの海苔販売量の増加を目指し、海水浴客など、富津市への来訪者を対象とした試食会開催や販路の拡大に取り組む。 ふるさと納税の返礼品として、ふるさと納税を行う消費者へPRと漁協ブランドの海苔の販売量増加を目指す。 漁協直営の食堂を開設し、消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や旬の生ノリ提供を行うとともに、組合直営の遊漁船業を開業し、釣客に漁協ブランド海苔の販売を行う。 ・ 漁協ブランド海苔に加えさら干し海苔の販売に取り組む。
漁業コスト削減のための取組	3棟目のノリの共同加工施設を設置し、令和5年漁期からの加工作業の協業化にむけ、3棟目を利用して加工作業の協業化に取り組む経営体を中心に、協業化した際の生産・管理体制について調整する。

活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）

4年目（令和5年度）以下の取組により基準年比 **14%** 増の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3棟目のノリ共同加工施設の運用開始により2号棟と合わせて 14% の所得向上を図る。 ・4棟目のノリ共同加工施設の実施設計を行う ・生産対策 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に取組をおこなった三重県方式の防除ネットの改良、効果検証結果により、引き続き改良型の防除ネットの普及を図ることで、生産増を目指す。 高水温化に対応するため、高水温耐性品種ちばの輝きの普及を推進するとともに、ノリの養殖開始日を決定するにあたりノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の7~10日先の予報を活用する。 また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。 近年のノリの生育不良の原因究明と対策の開発に水産研究センターと連携して取り組む。 ・PR活動 <ul style="list-style-type: none"> 学校給食へのノリの提供、生ノリフェアとの連携を行うほか、海苔販売促進基本方針に基づく取組に積極的に参加し、PR活動を行う。 漁協ブランドの海苔販売量の増加を目指し、海水浴客など富津市への来訪者を対象とした試食会開催や販路の拡大に取り組む。 ふるさと納税の返礼品として、ふるさと納税を行う消費者へPRと漁協ブランドの海苔の販売量増加を目指す。 漁協直営の食堂を開設し、消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や旬の生ノリ提供を行うとともに、組合直営の遊漁船業を開業し、釣客に漁協ブランド海苔の販売を行う 漁協の遊漁船、食堂により消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や、生ノリの提供を行うとともに、漁協ブランド海苔の販売を行う。 漁協ブランド海苔に加え干し海苔の販売に取り組む。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	・ 4 棟目のノリ共同加工施設の設置に向けた詳細設計を行う
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）

5 年目（令和 6 年度）以下の取組により基準年比 **14%** 増の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>・ 4 棟目のノリ共同加工施設の整備</p> <p>2・3 棟目のノリ共同加工施設の運営に係る課題、利用者の所得状況を整理し、効率的な運営を図る。</p> <p>・ 生産対策</p> <p>令和 2 年度に取組をおこなった、三重県方式の防除ネットの改良、効果検証結果により、引続き改良型の防除ネットの普及を図ることで、生産増を目指す。</p> <p>高水温化に対応するため、高水温耐性品種ちばの輝きの普及を推進するとともに、ノリの養殖開始日を決定するにあたりノリ漁場水温予報システム、気象庁やヨーロッパ中期予報センター等の 7～10 日先の予報を活用する。また、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、先の予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p> <p>近年の生育不良の原因究明と対策の開発に水産研究センターと連携して取り組む。</p> <p>・ PR 活動</p> <p>学校給食へのノリの提供、生ノリフェアとの連携を行うほか、海苔販売促進基本方針に基づく取組に積極的に参加し、PR 活動を行う。</p> <p>・ 漁協ブランドの海苔販売量の増加を目指し、海水浴客など富津市への来訪者を対象とした試食会開催や販路の拡大に取り組む。</p> <p>・ ふるさと納税の返礼品として、ふるさと納税を行う消費者へ PR と漁協ブランドの海苔の販売量増加を目指す。</p> <p>・ 漁協直営の食堂を開設し、消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や旬の生ノリ提供を行うとともに、組合直営の遊漁船業を開業し、釣客に漁協ブランド海苔の販売を行う・漁協の遊漁船、食堂により消費者に対して「新ノリ」や「ノリの旬」などの正しい情報や、生ノリの提供を行うとともに、漁協ブランド海苔の販売を行う。</p> <p>・ 漁協ブランド海苔に加えばら干し海苔の販売に取り組む。</p>
漁業コスト削減のための取組	4 棟目のノリの共同加工施設を設置し、令和 7 年漁期からの加工作業の協業化にむけ、4 棟目を利用して加工作業の協業化に取り組む経営体を中心に、

	協業化した際の生産・管理体制について調整する。
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業）

(5) 関係機関との連携

富津市には千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所があり、身近にノリ養殖技術の相談・指導を受けられる体制が整っている。また、富津市やノリの共販・加工販売を行う千葉県漁連と積極的に連携を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 27～令和元年度 (5 中 3 平均) :	
		漁業所得	千円
	目標年	令和 6 年 :	漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別紙のとおり

(3) 所得目標以外の成果目標

1 経営体当たりのノリの生産枚数の増加	基準年	平成 27～令和元年度 (5 中 3 平均) :	135 万枚
	目標年	令和 6 年度	: 137 万枚
漁協ブランドの海苔の販売量の増加	基準年	平成 27～令和元年度 (5 中 3 平均) :	90,597 枚
	目標年	令和 6 年度	: 135,896 枚

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

【1 経営体当たりのノリの生産枚数の増加】
 本プランではノリ共同加工施設の導入により、1 枚当たりの乾ノリ製造コストが削減されるとともに、自らが行っていた加工生産を共同加工施設に委託することで、ノリの生産効率と品質が向上し、ノリ生産枚数が 10%、1 枚当たりの単価が 6%増加することが見込まれている。単価については、全国の相場等に大きく左右されることから、本プランの取組の効果を測る指標として、本地区の 1 経営体当たりのノリの生産枚数の増加を第 1 サブ指標として設定する。本施設について

では、令和 2 年度に 4 人、令和 4 年度に 4 人の計 8 人が導入を予定していることから、本地区の 1 経営体当たりのノリの生産枚数を基準年（平成 27～令和元年 5 中 3 平均）の 135 万枚から目標年（令和 6 年度）に 137 万枚（1.3%）に増加を図ることとする（別紙参照）。なお、指標の範囲として、同施設を導入する漁業者については、状況によって現在の予定者から他者に変更される可能性があり、変更した場合には、指標の進捗管理が困難となるため、導入する漁業者が変更されても進捗管理に影響が無いよう地域全体の 1 経営体当たりのノリの生産枚数とした。

【漁協ブランドの海苔の販売量の増加】

27 年漁期以降継続しているノリの不漁などの問題が生じているため、生産性の回復や単価の向上に対する取り組みが急務となっている。

組合では、海水浴客など富津市への来訪者を対象とした試食会開催やふるさと納税返礼品による販売等、新富津漁協ノリの PR を行っており、漁協直営の食堂や遊漁船での販売も計画している中で、漁協ブランド海苔の販売を通じた、イメージアップを図ることとしている。

このため、組合ブランド海苔の販売量の増加を第 2 サブ目標として設定する。

算出には、漁協ブランド海苔の販売枚数を用い、基準年は平成 27 年度から令和元年度の 5 か年のうち最大と最小値を除いた 3 年の平均値 90,597 枚とした。目標年となる平成 6 年度は、販売目標枚数を 50%増の 135,896 枚とした（別紙参照）。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の活力再生・成長促進交付金 (水産業強化支援事業)	大型ノリ自動乾燥機及び設置に必要な上屋の整備に活用予定
未定	遊漁船及び食堂の整備によりノリの PR の促進に活用予定